

令和3年度 公民館主催事業報告書

公運審提出日 令和4年5月18日

NO	実施館	事業名	期間・回数	参加者数	実施内容	主な講師等
1	柳沢	障害者学級 くるみ学級	令和3年4月10日から 令和4年3月13日 コアクラス 第2・第4土曜日 たんぽぽクラス 第2・第4日曜日 13時30分から15時30分 各クラス全16回	コアクラス 延べ228人 たんぽぽクラス 延べ246人	・創作、音楽、スポーツ、ゲーム、館外活動など多様な活動の場を設けた。 ・活動内容を決める話し合いを多く取り入れたり、活動中に担当できる役割を設けたりなど、学級生が能動的に参加できるようにした。 ・コロナ禍の中、地域との交流が難しかったが、ボランティアスタッフとの新たな取り組みを実施し、より交流を深める機会となった。	【創作活動】 井上千恵美（臨床美術士） 進藤幸枝（臨床美術士） 【音楽活動】 下田みゆき（音楽講師）
2	柳沢	子育て中の女性のための講座 （保育付き） 笑顔が生まれる絵本のある暮らし	令和3年9月22日から 令和4年3月16日 水曜日 10時から11時45分 全14回	延べ86人	・誕生学を学び、感じたことを話し共感し合うことで、家族との関係を見直すとともに、安心して話せる場となった。 ・様々なジャンルの絵本の知識や絵本の選び方を学び、手遊びやわらべうたを組み合わせたおはなし会を行うことで、仲間と共に親子で絵本に親しむ機会となった。	福岡淳子（児童図書館研究会 会員） 青木千景（いのちの語り部）
3	柳沢	イスに座って！ やぎさわディスコ	12月19日 日曜日 14時から15時15分	19人	コロナ禍でも椅子に座ってソーシャルディスタンスを取りながら、障がいのある人もない人も音楽を聴きながら身体を動かすことを一緒に楽しむ場となった。	

4	柳沢	地域づくり未来大学 ステップアップ編	2月5日 2月12日 3月5日 土曜日 13時30分から15時30分 全3回	延べ54人	地域づくり未来大学修了者（地域づくりサポーター登録者）が修了年度を超えてつながり、コロナ禍での地域の活動について考える機会となった。	岩松真紀（明治大学非常勤講師） 若尾健太郎（株式会社ユニココ）
5	柳沢	第16回 人形劇フェスタ in 西 東京	3月20日 日曜日 ①10時から ②11時30分から ③13時30分から ④15時30分から 4回	延べ151人	人形劇、パネルシアター、影絵と日頃の活動で作上げた演目を上演し、子どもたちに家族と一緒に作品の楽しさを体感してもらう機会となった。	井上幸子（人形劇団プーク）
6	田無	障害者学級 あめんぼ青年教室	令和3年4月3日から 令和4年3月20 第1土曜日 13時から15時 第4日曜日 ①10時から12時 ②13時から15時 全30回	延べ400人	<ul style="list-style-type: none"> ・田無公民館耐震補強等改修工事のため、隣接する「きらっと」で時間を変更して実施した。 ・土曜日の青年スタッフ活動では一人一人が積極的に意見を出し、主体的な活動となるよう支援した。 ・日曜日活動では創作、ダンス、朗読、音楽など自己表現を促し、仲間と共に創りあげる喜びや達成感を得られるよう支援した。 	中村ひろみ（ダンス講師） 初田樹里（創作講師） 指田ふみ（創作講師） 下田みゆき（音楽講師） 山野邊千鶴子（朗読講師）

7	芝久保	子育て中の女性のための講座 (保育付き) 10年後の私、きらめいて ～あなたの人生、あなたが決めよう！～	令和3年10月19日から 令和4年3月15日 火曜日 10時から11時45分 全12回	延べ75人	<ul style="list-style-type: none"> ・各回様々なワークを通して、女性が「仕事と家庭・育児の両立」を実現する方法、及び日常生活の中で効率的な身体活動やストレスとの上手な向き合い方を学んだ。 ・多様な働き方・生き方をするために、自分の目標を決め、そのために何をすればよいかを考え、それを可視化し、自分の10年後のキャリアデザインを描いてみる機会となった。 	柴田悦子・花崎晶・松岡年 (NPO法人ウィメンズ・サポート・オフィス連) 佐古隆之(日本女子大学家政学部専任講師) 石川文子(NPO法人子ども家庭リソースセンター所属) 堤香苗((株)キャリア・マム代表取締役)
8	芝久保	防災講座 災害の知恵袋 ～基本の備えで憂いなし～	2月26日 土曜日 14時から16時	18人	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルス感染拡大に伴い、定員を20人にし、Zoomによるオンライン形式の講座を実施した。 ・幅広い年齢の人たちにとって事前の備え、災害時の行動(対応)等をワークシートを用いて考えることにより、自助の重要性を再認識するなど、防災の基本事項を学習する機会となった。 	荘 雄一朗(西東京レスキューバード代表)
9	芝久保	親子おたのしみ企画 親子で己書 ～絵のような文字で気持ちを伝えよう～	2月27日 日曜日 10時から12時	13人	<ul style="list-style-type: none"> ・講座前から親子で伝え合いたい文字やフレーズを考えてもらい、文字に込める気持ちを準備してもらった。 ・筆に親しみ、筆文字の楽しさを体感する機会となった。 ・講座の最後に鑑賞会を設け、文字に込めた気持ちや表現について親子や参加者の想いを共有する機会となった。 	岡川清乃(日本己書道場公認師範)

10	芝久保	<p>【共催事業】</p> <p>平和を考える講座 子どもと大人の平和を考える読み聞かせ ※図書館との共催</p>	<p>3月13日 日曜日 10時から12時</p>	9人	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の戦争や世界の難民などの絵本、紙芝居の読み聞かせを聞き、平和の大切さに改めて気づく機会となった。 ・西東京市に語り継がれるお地蔵さんの話や、市内の戦跡を知り、戦争の悲惨さを身近に感じる機会を提供した。 ・読み聞かせを聞いて参加者同士が思ったことを話し合い、各々の考えを共有し、平和の大切さを再確認する機会となった。 	牧野裕子（市図書館職員）
11	谷戸	農業を知る講座	<p>令和3年7月27日から 令和4年2月22日 火曜日 (11月24日は水曜日) 8・9月 8時30分から10時30分 10・11月 9時から11時 12月・講義 10時から12時 1・2月 14時から15時 全23回</p>	延べ682人	<ul style="list-style-type: none"> ・4班に分かれて農業実習を行った。大豆（枝豆）、大根、人参、白菜など秋から冬の野菜づくりと収穫を行った。 ・環境から見た農業、都市農業の新しい展開、西東京市の農業振興への取り組みについての講義を行い、農地を守る意味や暮らしへの影響を考えることができた。 	<p>保谷隆司（市内農業経営者） 小野紀之（環境カウンセラー、一般社団法人地域パートナーシップ支援センター理事長） 西東京市産業振興課職員</p>
12	谷戸	<p>女性のための講座（保育付き） これだけは知っておきたい！ 身近な世界を知る講座</p>	<p>令和3年9月30日から 令和4年3月24日 10時から11時45分 木曜日 全18回</p>	延べ162人	<ul style="list-style-type: none"> ・世界で起こっている出来事が日本と、自分と、決して無関係ではないことを知ることによって自分の事としてどのように行動していけばよいか考えるきっかけになった。 ・毎回グループで話し合う機会を設け、発表し全体共有することで、同じ西東京市に住む女性の中でも多様な意見がある事を改めて感じる事ができた。 	<p>萩原なつ子（立教大学大学院教授） 新堀毅（都立日比谷高校講師） 佐藤華子（行政書士） ナンミヤケーカイン（京都精華大学准教授） 木下理仁（かながわ開発教育センター理事） 後藤絵美（東京外国語大学助教）</p>

13	谷戸	インクルーシブな社会をめざす講座 ボッチャでなかまづくり in 西東京	11月21日から 12月19日 10時から12時 日曜日 全5回	延べ162人	・障がいの有無にかかわらずともにボッチャというスポーツを楽しんだ。 ・地域でこれまで知りあうことがなかった人たちが交流し、ボッチャを通じて新しいなかまづくりを目指した。	渡辺文子(西東京市スポーツ推進委員、障がい者スポーツ指導員) 西東京市スポーツ推進委員
14	谷戸	くらしに役立つミニ講習会	① 1月25日(火曜日) ② 2月22日(火曜日) ③ 3月22日(火曜日) 10時から12時 3回	延べ36人	・ハーバリウム、パステルと筆文字、アロマ化粧水作りの講座を各1回行った。初めて公民館講座へ参加する方でも気軽に取り組めるような内容とした。 ・公民館講座へ初めての参加者が半数近くになった。	①南雲みさ(日本ハーバリウム協会認定講師) ②荒道恵美(一般社団法人伝筆協会認定講師、パステル和アートインストラクター) ③樋口綾子(日本アロマ環境協会インストラクター)
15	谷戸	子ども体験講座 日本の文化「茶の湯」を体験	2月19日 土曜日 ①13時30分から14時30分 ②15時から16時 2回	延べ7人	・茶道の心や歴史、茶室での作法やお茶のたて方、茶碗の持ち方、いただき方など、伝統文化「お茶」の作法を体験した。 ・他の日本の伝統文化や日本の歴史も知ることができ、谷戸公民館の和室にも目を向けるきっかけとなった。	高橋啓子(茶道講師、西東京市茶華道文化協会所属)
16	ひばりが丘	親子で楽しいベビーヨガ&ストレッチ	①11月4日(木曜日) 10時から12時 11月5日(金曜日) ②10時から11時 ③11時30分から12時30分 3回	延べ44人	・産後の身体の変化についての講義を行った後に、タオルを使ったストレッチ、ベビーマッサージ及びママヨガを行った。 ・親子でマッサージやヨガを行うことで心身をリラックスさせ、互いにふれあいスキンシップを増やすことで親子の絆を深める機会となった。	中島千草(一般社団法人日本マタニティフィットネス協会認定「ママヨガ」「ベビービクス&ベビーヨガ」インストラクター)

17	ひばりが丘	子育て中の女性のための講座 (保育付き) 日本の伝統造形文化に親しむ ～折り紙でつくる地域とのつながり～	11月19日から 3月14日 金曜日 2月14日(月曜日) 3月14日(月曜日) 10時から11時45分 全10回	延べ66人	・地域で30年以上活動するサークルのメンバーがボランティアで参加し、作品づくりだけではなく、地域の先輩方との世代を超えた交流を行った。 ・ひばりが丘フェスティバルで作品を展示することで地域へ学びを還元することの楽しさを体験した。	國松豊子(日本折紙協会認定折紙講師)
18	ひばりが丘	ひばりが丘公民館 サークル見学会	1月12日(水曜日)から 2月8日(火曜日)	参加サークル 16団体 参加者 延べ19人	公民館のサークル活動に興味を持つ市民に対してサークルの見学や体験の機会を、また、参加サークルに対して活動紹介と会員募集の機会を、提供した。	
19	ひばりが丘	【共催事業】 子どもの課題を考える講座 不登校経験者が語る ～学校に行かない子どもの心の中～ ※「不登校情報ネットワーク ハートライン ひばり」との共催	2月6日 日曜日 13時から16時	延べ24人	・不登校経験談を聞き参加者同士が共有できる質疑応答により、学校に行けない子どもに対して親や地域の支援者がどのように関わっていけばよいのか、何ができるのかを考える機会となった。 ・市内親の会の紹介と交流会を行うことで、悩んでいる親をサポートする場が地域にあることを知ってもらうことができた。	茂手木涼岳(NPO法人全国不登校新聞社理事) 子ども若者編集部員3人
20	ひばりが丘	第13回 ひばりが丘フェスティバル	3月6日 日曜日 10時から16時	延べ207人	・公民館を利用する市民団体に発表の場を提供することで、日頃の活動に対する意欲を高め、フェスティバルを創りあげるプロセスを通して活動の幅を広げていく機会となった。 ・地域住民が公民館利用者と一緒に発表や展示を楽しみ交流する場、学び合う場を支援することにより、世代を超えたつながりのできる「地域に根ざした公民館」を実感できた。	

21	保谷駅前	あつまれ！ みんなのけいおん 講座	令和3年7月18日から 令和4年3月20日 日曜日 14時から16時 全9回	延べ107人	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽練習室がある施設の特性を生かして実施。 ・中学1年生から高校2年生までの参加者が、ギターやキーボード、ドラムの演奏を学んだ。 ・最終回は発表会とし、講座の仲間同士、達成感を共有することができた。 	<p>太田光宏（音楽制作集団HEART NOTE PROJECT代表） 渡邊篤子（生涯学習音楽指導員） 山本雄一（ドラム講師）</p>
22	保谷駅前	多文化共生講座 垣根のない明日のために ～外国人労働者の日常から～	1月29日から 2月19日 土曜日 10時から12時（第1回は12時30分まで） 全4回	延べ73人	外国人労働者の雇用環境の現状と課題、そして彼らの家族が抱える課題・教育について、映画や当事者の声・客観的な調査資料や具体的な事例を通して学び、問題点を整理するとともに、彼らの人権が守られる共生社会となるには、どうすればよいのか考えるきっかけを提供した。	<p>渡邊一孝（映画『海辺の彼女たち』プロデューサー） 鳥井一平（「NPO法人移住者と連帯する全国ネットワーク（移住連）」代表理事 カディザ・ベゴム（西東京市在住のロヒンギャ難民） 鈴木江理子（国土館大学文学部教授・NPO法人「移住連」副代表理事）</p>
23	保谷駅前	バンドマルシェ@保谷駅前	3月6日 日曜日 13時から16時	延べ40人	<ul style="list-style-type: none"> ・準備会を開催し、市民主体の企画運営を行った。 ・演奏団体として8団体が参加し、音楽を通じた地域の交流の機会となった。 	
24	保谷駅前	防災講座 災害について知る！ 備える！ 行動する！ 明日の暮らしに役立つ体験型防災講座	3月17日 3月24日 木曜日 14時から16時 全2回	延べ22人	安全なまちづくりと暮らしのために、災害時の訓練や協力体制について取り組むための心構えを学び、実際に簡易的な避難所を体験することで防災対策についての知識を身に着けることができた。	宮崎賢哉（災害支援・防災教育コーディネーター、社会福祉士）